

2010-11年度
RIテーマ
「地域を育み、
大陸をつなぐ」



RI会長
レイ・クリングスミス



第2720地区ガバナー
木下 光一



宇佐ロータリークラブ会長
津々良 洋一

週報宇佐



陵王面



孔雀文馨

- 例会日 木曜日 PM12:30
- 例会場 宇佐市沖須町 1-19
トキハインダストリー長洲店 2F
TEL (0978) 38-1112

会 長 津々良 洋 一
幹 事 幡 手 一 義
編 集 本 庄 伸 子

10月は職業奉仕月間

本日のプログラム (10月14日)

1. 会長の時間
2. 幹事報告
3. 委員会報告
4. スマイルカード
5. 内部卓話「西全州RC訪問報告」
6. 出席報告

10月の行事予定

- 7日 内部卓話「職業奉仕月間にあたり」
白杵 確委員長
- 14日 内部卓話 西全州RC訪問報告
- 21日 外部卓話 米山奨学生 ^{キョウ}姜 ^{テウケン}鏗軒さん
- 28日 内部卓話 廣瀬辰彦会員

第2127回例会 平成22年10月 7日 の記録

- ♪ 点 鐘
- ♪ ソ ン グ 君が代、奉仕の理想
- ♪ ゲ ス ト 網中賢治氏
- ♪ ビジター なし

会長の時間 津々良洋一会長

アンニョハセヨー、日曜日より、3泊4日で西全州RC40周年記念式典に合わせた、姉妹締結結縁延長調印式の訪問をして参りました。あっという間の4日でしたが、同行頂いた会員皆様の結束した支えを頂き、何とか無事予定通り、努めを終えることができました。ご同行頂きました河村国際奉仕委員長、米沢国際奉仕副委員長、藤林前会長、是永SAA、本庄会報IT委員長、そして、幡手幹事大変お世話になり

ました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今回の旅はあまり観光はできなかつたのですが、ハードでもなくゆったりでもなく、ちょうど良い時間配分の中、楽しく終えることができました。これも裏方で動いて頂いた通訳で同行して頂いた是永SAAの姪にあたる是永千穂さん(市長の娘さん)のお陰です。

西全州RCとのおつきあいの中で、いつものことですが、当初、先方と連絡があまり取れず

USA-OITA

第2720地区 宇佐ロータリークラブ

事務局 〒872-0032 大分県宇佐市大字江須賀2999番地の2 株式会社ユニックス内
TEL. FAX : 0978-38-2370 <http://www.usa-rotary.com/>

大丈夫だろうかと少し心配していましたが、着いてみれば、それら心配を払拭する歓待で、そうしたときに言葉の壁は大きいですが、通訳として千穂さんが動き回って頂いたお陰で、お互いにコミュニケーションが、非常に取れたように感じます。もうひとり本庄通訳も人気物で、ボディランゲージと英語ですっかり先方のロータリアンととけ込んでおり、お陰でそちらに気が集中するので爆弾の投下は免れたように感じます。

尚、次週卓話時間を頂いていますので、詳しい報告はその時にさせて頂くということで、話は変わりました、待ちに待った新メンバー辛島光司君の入会式を後ほど行います。クラブとしてのモチベーションを上げ活性化を図ることを、優先に考えるべきで、闇雲に会員を勧誘してもやる気がなければ、クラブの衰退に繋がるのではないかとの意見もありますが、会員が少なくは大きな活動ができません。とにかく入会していただき、合うか合わないかは、入会していただいてからご判断していただくという考えのもと、どんどん新会員を増やしてゆきたいと思えます。

どうぞ、会員の皆様もご推薦宜しく願いいたします。

それでは簡単ですが、会長の時間を終わります。カムサムニダ

幹 事 報 告	幡手一義幹事
---------	--------

1. 来信

- 1)ガバナー月信 第4号；配布
- 2)第2730地区より「口蹄疫被害救援支援金ご協力の御礼」
- 3)熊本江南ローターアクトクラブより「第24回熊本分区分留学生交流会のご案内」

2. 例会変更

玖珠RC：①10/14(木)の例会は、同日12:30～「永松会長宅」に変更；職場訪問例会の為 ②10/21(木)の例会は、10/24(日)10:30～「溪和」に変更；大分1985RCとの合同例会の為

別府RC：①10/22(金)の例会は、同日12:30～「CTBメディア(株)」に変更；職場例会の為 ②10/29(金)の例会は、10/30(木)に変更；ソフトボール例会の為

別府中央RC：10/26(火)の例会は、同日12:30～「河村会計事務所」に変更；職場例会の為

別府北RC：10/27(水)の例会は、同日18:00～「ヒットパレードクラブ」に変更；職場例会の為

大分中央RC：10/13(水)の例会は、同日18:30～「大分第一ホテル」に変更；月見例会の為

大分1985RC：10/25(月)の例会は、10/24(日)「溪和」に変更；玖珠RCとの合同例会の為

大分RC：11/2(火)の例会は、10/31(日)12:00～「筑紫亭」に変更；野外家族例会の為

3. 週報受理

中津中央RC、玖珠RC、佐伯MARINERC

4. 理事会報告

- 1)辛島光司氏の入会を承認致しました。
本日入会式を行います。
- 2)10月のプログラムについて承認致しました。
7日 内部卓話 臼杵確職業奉仕委員長
「職業奉仕月間にあたり」
14日 内部卓話 西全州姉妹締結延長訪問
の報告
21日 外部卓話 米山奨学生
キョウ チュウケン
姜 鏑軒さんの卓話
28日 内部卓話 廣瀬辰彦会員

5. お知らせ

なし

6. 欠席連絡

岩井謙次会員、廣瀬辰彦会員、藤本博和会員
和田久継会員

7. 本日の当番

磯永喜八郎会員、臼杵確会員

入会式

辛島 光司会員

職業分類：塾経営
推薦者：河村正一会員



みなさん、こんにちは。正式に入会させていただきました。ありがとうございました。これから、皆さんとともに一つ一つ教えていただきながら、意義のある活動をして行きたいと思っております。これからもご指導よろしくお願いします。

スマイルカード 藤本博和委員長

10月のお祝い

〈本人誕生日〉 河野千佐子会員
〈配偶者誕生日〉 石部幸二会員(百合子様)
〈結婚記念日〉
岩井謙次会員、長浦善徳会員

(お祝い)

河野千佐子会員：今日はありがとうございます。それからいつも大変お世話様になっています。何も役にたてずにすみません。

石部幸二会員：妻の誕生日をお祝いしていただきありがとうございます。

長浦善徳会員：結婚して24回目となります。早いものです。



(ニコニコ)

津々良洋一会長：西全州RCの訪問から無事帰ってきました。御同行の皆様にご挨拶いたします。

幡手一義幹事：西全州RC訪問おつかれさまでした。臼杵会員卓話よろしくお願いします。

河村正一会員：西全州訪問の皆様お世話になりました。辛島光司君の入会おめでとうございます。また、ゲストの網中君もよろしくお願いします。

藤林鋭司会員：西全州RCに訪問同行された皆様に大変お世話になりました。末宗副会長のお陰で楽しい旅でした。ありがとうございます。

是永潤一会員：17年ぶりに海外に出かけました。本日の内部卓話、臼杵会員よろしくお願いします。

本庄伸子会員：無事に帰ってきました。すごく楽しかったです。

末宗為十会員：西全州へ行かれた皆様大変お疲れ様でした。

臼杵確会員：津々良会長ならびに韓国へ行かれた会員のみなさん、おつかれ様でした。本日は卓話をさせていただきます。宜しくお願いいたします。

廣瀬辰彦会員：遅刻して申し訳ありません。何とか出席出来ました。

ニコニコ累計 175,000円

内部卓話

「職業奉仕月間にあたり」

臼杵 確職業奉仕委員長



今回の卓話は、あわじ中央RCで”深川パストガバナー”が職業奉仕の卓話をされた内容がHPに掲載されましたのでこちらを引用させていただきました。

以下、引用。

ロータリー運動というものは、職業人の倫理運動であります。倫理運動としての社会奉仕ということを考えなければ、ただ金を集めて何かをするというのでは、他の奉仕団体の社会奉仕と何ら変わりのないものとなってしまいます。

ロータリーの倫理運動というものは、綱領にあります。1911年ミネアポリスクラブの初代会長であったフランク・コリンズが、「私利私欲でもってロータリーに入りたる者はロータリアンと云うことを得ない。ロータリーというのは、“Service, not self”自分を否定して、この宇宙を支配する神の秩序体系のもとに帰依せよ。それがロータリーのサービスだ」と言いました。

しかし、初めからロータリーは倫理運動ではありませんでした。最初のシカゴクラブは、自分たちだけが隆々と栄えていこう、楽しいクラブにしよう、とってお互いに助け合って始めた、いわばエゴイズムのクラブでありました。それがやがて、世のため人のためのクラブでなければならない、と方向を転換していきました。そして、我々は職業人だから、職業を通じて何か世のため人のためになることをしよう、という考えが生まれてきたのであります。その延長線上に倫理運動として、世のため人のためにやっといこうという発想がでてきました。そして、1927年に職業奉仕という概念を生み出すに至るのであります。

どのような不況期になっても絶対に倒産しない原理、その原理の総体を職業奉仕と呼ぶのでありますが、そのことがどうして実証できるのかといいますと、職業奉仕という概念が生まれたわずか2年後の1929年に、アメリカ経済社会を襲った空前絶後の大パニックの時に、ロータリアンは誰一人として倒産しなかったのであります。それは1910年頃から営々と、その原理を自らの企業において実践して、強靱な体質の企業を作り上げていった、その職業奉仕の功德である、と言われております。ロータリアンは、職業奉仕の原理を実践することによって、この自由競争の社会で須く勝者となることのできる。またならなければならない。そして勝者になったら今度は、その自由競争の敗者の代弁者となって、経済の復興に力を注いでいかなければならない、とロータリーの職業奉仕は説いているのであります。また、その通りに、大恐慌の後の経済復興にロータリアンが非常な力を発揮したことが記録に残っています。このように職業奉仕の原理は不況期に強い哲学であります。

ロータリアンは、すべて管理者、企業のトッ

プであります。まず、その企業をどのような管理をすれば強靱な体質に育て上げることが出来るかが第1の企業内管理の問題であります。下請関係についてロータリーの職業奉仕はどのように説いているのかが第2の問題であります。ロータリアンの企業と同業関係にある企業との関係において、どのような原理を開発しているのかが第3の問題であります。売買契約上も、売る前にはどうするのか、売る時にはどうするのか、売った後にはどうするのかという3つの場合があります。ロータリーの職業奉仕はこの3つに分類して職業奉仕の原理を説いています。

第1に、企業内管理論であります。「他人なくして自分なし、自分なくして他人なし」ということを、まずよく頭の中に入れておく必要があります。企業の中には社長もいれば、部長課長もいれば、電話交換手もいるし、運転手もいれば、工員もいます。しかし、それぞれの人達が、上下の関係ではなくて、それぞれの役割を完全に果たすことによって、企業というものが円満に発展していきます。どれか一つが抜けてもだめなのであります。これを権限論的、法律論的に見ますと、社長さんは会社のオーナーであって、その下に従業員がいて、すべて雇用関係で会社とつながっています。ロータリーが企業内管理論を説くときには、このような上下関係の見方をしません。機能的に見ていくのであります。そして法律論的に見ないで、倫理的に見る。どうしても法律論的に見なければならぬときには、倫理の裏打ちのある法律論を出そうというのがロータリーの基本的な考え方であり、企業というものは、利害の相対立する2つの人脈集団によって構成されています。一つは役員であり、もう一つは労働者であります。そしてこの二つの人脈集団は、相互に拭い難い不信感をもっています。ロータリーの職業奉仕論は、いかにしてこの不信感を拭い去ることができるか、を考えるわけであり、そのためには、企業の経理の公開が大前提となります。経理を公開していない企業があったとしても、簿記や会計というものは一般に従業員が行っており、自ずとわかるものであります。社長が、今景気が悪いから今年のベースアップは何とか低くしておいてくれ、と言ったところで、後からみると、社長の愛人が従業員に入ってい

たり、いろいろ出てくるとますます不信感が強くなります。しかしながら、一定の労働に対してどれだけの賃金を支払えば適正か、ということは組織体の総収入から割り出さなければなりません。そうなりますと適正な賃金というものは、相対的なものとなります。そのためにも、経理の公開というものが重要になってくるのであります。次に、利潤の適正分配ということが言われています。最初に、ロータリーは企業を機能的に見ると言いました。従業員も役員も一生懸命自分の役割を果たしたために、会社の利益が出てきたわけでありますから、役員と同じく、会社の利益を生み出すもとなった従業員にもそれを還元しようということであります。このように、経理を公開して適正賃金を支払い、利潤の適正分配を行えば、従業員の役員への信頼は高まります。経理の公開を前提に適正賃金を支払い、そして利潤の適正分配をする、そういうことをロータリーの職業奉仕は説いているのであります。

第3の柱となるものは、人間関係であります。従業員と会社との関係は、従業員が一定の時間の労働を会社に提供して、それに対して賃金が支払われるものであります。ここで注意していただきたいのは、労働を提供すればいいということであります。ともかく朝8時に会社に行き、5時まで居れば給与がもらえる。労働の質は法律上規定できないのであります。

これに対して役員は、時間で計られた労働を提供しているわけではありません。役員はまさに労働の質が大事であります。1時間も会社に出なくても、役員報酬を受け取ることができます。会社に行くかどうかではなくて、いかに良質な労働を会社に提供するかが問題なのであります。

ロータリーの職業奉仕は、従業員といえども良質な労働を提供しなければならない、そのためにはいかに役員が従業員を教育するのか、ということを説いているのであります。会社にいるときはもちろん、5時以降の時間にも、従業員に生き甲斐を与えるような労務管理、教育が必要なのであります。このような論理は、法律論からは出てきません。労働の質をよくすることは、倫理の問題であります。従業員を育てる要諦は、従業員の働きに感謝し、慰労し、

激励する、ということであります。そして従業員は60点満点説をとります。80点の従業員に育てなければならぬと考えるよりは、60点でいいと見え、激励する。これが企業内管理論の要諦であると考えております。

次は下請関係であります。親会社と下請の関係を見ると、力のバランスが崩れています。どうしても親会社の方が、強くなります。強いものが弱いものを踏みにじっていきます。そういう現象が起こってきます。ロータリーはそれを「徳」というものを1枚入れて、そのアンバランスを調整しようとするわけであります。

第1は、利益の適正分配の原則であります。資本主義経済社会は自由競争が原則になっていきます。その時に、力のバランスが崩れていると、叩かれた方は泣くわけであります。そこで、「人を泣かせて、その上に自分の幸せを築くなよ」という原則が出てきます。人を泣かせて、その上に自分の幸せを築くと言うことを、ロータリーの職業奉仕は厳に戒めているのであります。第2の倫理原則は、賄賂の禁止であります。力のバランスが崩れていくと、どうしても弱い者が強い者に賄賂を贈ることになりがちであります。これは下請関係だけでなく、取引関係でも需要と供給のバランスが崩れると、プレミアムという形で賄賂が横行します。賄賂をロータリーは厳に戒めているのであります。ロータリーは、倫理運動の立場から、概念を広くし、正当な労働の投下によって得る賃金、ないしは正当な報酬以外の一切の金品の授受は、これを全部賄賂と看做しています。ロータリー的には盆暮れの付け届け、中元歳暮も賄賂となります。しかし、ロータリーは第2の原則を用意しております。それは公開の原則であります。それが賄賂であるかどうかを判断するために公開なささい、と説いています。つまりロータリーは、心にやましいことがあれば、なかなか公開できないだろう、したがって人に堂々と公開できるものは賄賂とは言えない、と説いています。

井坂パストガバナーが提唱した第3の「ロータリアンはいたずらに慈善事業に浮き身をやつすことなかれ」について説明しておきます。井坂さんは、「ロータリーの神通力は、実業の世

界にのみ発揮されるべきである」と言いきっておられました。その思想は、まず職業奉仕に徹して、自分の企業をどんな不況期にも潰れない強靱な体質の企業に作り上げた上で、しかる後に余裕があれば、社会奉仕、国際奉仕に手を出すべきであって、ロータリーが、ロータリー財団をはじめ、ローターアクト、インターアクト、世界社会奉仕等々あまり手を広げすぎると、ロータリーが崩壊する。自分は、ロータリーの神髓に忠実であるが故にロータリー財団に寄付しない、と言って、生涯ロータリー財団に寄付をしなかったロータリアンでありました。「いたずらに」「浮き身をやつすな」というところがポイントであって、「一番大事なものは職業奉仕ですよ」と言っているのです。ロータリーでなければ出来ない世のため人のための奉仕ということになれば、我々は職業人でありますから、職業を通じて、その業界を浄化していく、地域社会を浄化していく、これが奉仕であると思うのであります。

次に同業関係であります。ロータリーには同業者がいません。異業種の集まりでありますから、発想が皆違います。そこで、いろいろなアイデアを例会で出し合って、交換しあい、そしてどんな不況期にも潰れない強靱な体質の企業を作るアイデアを開発します。そしてそれを同業者に分かち合う、同業者共存共栄をロータリーは説いているのであります。いろいろな原理、アイデアを開発する、そして自分たちが栄えていくためにノウハウを開発する。そのノウハウを同業組合にもって行って公開する。また、同業組合で、為すべきこと、為すべからざることをお互いに誓い合う。職業倫理訓の提唱であります。

このようにアイデアの共同開発、ノウハウの公開ということが大変重要な柱になります。このノウハウというのは、産業秘密的なものを公開しろとっているではありません。何故ならば、それはまだ証拠立てられていないからであります。完全に証拠立てられて、これは絶対大丈夫、必ず成功するというものしか公開してはならないのであります。1954年から55年にかけて国際ロータリーの会長であったハーバート・テラーは、「四つのテスト」を開発しま

した。これも一つのノウハウの公開でありました。この「四つのテスト」にしたがっていけば、必ず成功すると考えて、みんなで力を合わせて、倒産したアルミ食器会社を再建したのであります。

今日の経済社会は、ずいぶん乱れています。賄賂の横行も目に余るものがあります。倫理の提唱を忘れた職業人がいかに多いことか。倫理を忘れた職業人は、歌を忘れたカナリアより始末が悪いものであります。カナリアが歌わなくなっても静かになるだけであります。倫理を忘れた職業人が増えてくると、国家を滅ぼし、果ては民族までも滅ぼしてしまいます。昨今の業界の乱れは、まさにロータリーの責任でもあります。倫理の提唱をおろそかにしてきたからであります。今後21世紀の扉を開くためには、職業奉仕に腹を据えて、倫理運動としてのロータリー運動を展開する以外に、この不況を脱却する道はないのではないかと思うのであります。

出席報告	出口幸太郎委員長
-------------	-----------------

第2127回（10月7日）

会員総数	29名
（内出席免除）	1名
-----	-----
出席数	25名
（内事前 MU）	4名
-----	-----
欠席数	3名
-----	-----
出席率	89.29%

☐事前メイクアップ

新開洋一会員、藤本博和会員、和田久継会員
（以上3名 フラワーロード花壇整備）
米澤哲也會員（西全州 RC）

☐欠席者

岩井謙次会員、小野田義文会員、出口幸太郎会員

※出席率の更正

◎9月16日の出席率は1名のメイクアップにより70.37%→**74.07%**に更正

☐事後メイクアップ

岩井謙次会員（宇佐八幡RC）